

既存の書誌データベース(LCMARC)を利用した 図書目録システム

附属図書館整理課洋書目録掛 片 山 淳

はじめに

ERIC, JOISの解説と異なり, MARC (Machine Readable Cataloguing) は, 情報の提供をサービス機能として行っている図書館の資料整理(目録)システムの機械化によって産出されるものであると同時に, システム自体をも示す

ものでもある。従って, 目録作業のプロセスが重視され, この報告も, 既存の書誌データベースLCMARC(米国議会図書館機械可読目録)を使用して開発を試みた実験のあらましの紹介に終始する。

79年度にLCMARC(Books)磁気テープ(デ

表1 LCMARC(実験用)データ構成表

Elements of LCMARC

項 目	内 容	*Index inverted	*Text	項 目	内 容	*Index inverted	*Text
KW	キーワード		T	S 440	〃 (トレーシング されたもの)	I	
L001	LC番号	I		S 490	双書表示(トレーシングと 異なるもの)	I	
Y008	刊行年	I		N500	一般注記		
I008	(LCの固定長フィールド で京大では出していないもの 全てを含む)			N501	合本注記		
T008	資料タイプ			N502	学位論文注記		
C008	出版国コード			N503	書誌的経歴の注記		
L008	言語			N504	内容中の書誌に関する注記		
I020	ISBN	I		N505	内容注記		
L041	二種以上の言語			N520	抄録か注釈についての注記		
G043	地域コード			H600	件名副出—個人名	I	
C050	LC請求記号	I		H610	〃 —団体名	I	
D082	DC分類番号	I		H611	〃 —会議名	I	
A100	基本記入—個人著者	I		H630	〃 —統一書名	I	
A110	〃 —団体著者	I		H650	〃 —普通件名	I	
A111	〃 —会議	I		H651	〃 —地名	I	
A130	〃 —統一書名	I	T	A700	副出記入—個人名	I	
T240	統一書名	I	T	A710	〃 —団体名	I	
T241	非ローマ字言語のローマ字 化したタイトル	I	T	A711	〃 —会議名	I	
T245	書名+著者	I	T	A730	〃 —統一書名	I	T
E250	版表示			A740	別形式で副出する書名	I	
P260	出版事項			S800	叢書副出(個人名+双書名)	I	
C300	対照事項			S810	〃 (団体名+双書名)	I	
B350	価格			S811	〃 (会議名+双書名)	I	
S400	シリーズ名—個人名	I		S830	〃 (統一書名+双書名)	I	
S410	〃 —団体名	I		S840	〃 (双書名)	I	
S411	〃 —会議名	I		X900	所蔵表示		

表注) LCのDataelement ではあるが, 実験では採用しなかったもの。

- | | |
|-------------------------------------|--|
| 010 LC Card number | 071 NAL Copy statement |
| 011 Linking LC Card number | 072 NAL Subject category number |
| 015 National bibliography number | 080 UDC |
| 017 U.S. Copyright number | 086 "Superintendent of documents classification" |
| 025 Overseas acquisition number | 506 "Limited use" note |
| 035 Local system number | 660 NLM Subject headings |
| 042 Search code | 670 NAL Subject headings |
| 051 Copy, Issue, Offprint statement | 690 Local Subject headings (Topical) |
| 060 NLM Call number | 691 Local Subject headings (Geographical) |
| 070 NAL Call number | |

ータ：1978年前半，98,909件）が入手され，これを利用した図書目録システムの開発実験が，大型計算機センターの開発プロジェクトとして試みられた。その概要を振りかえりながら紹介を試みる。

1. LCMARC の構成要素・検索

大型センターの富士通の情報検索システム F A I R S (Facom Advanced Information Retrieval System) にのせるためのコード変換がなされた際，構成要素をどの程度取り入れたものにするかが仮定され，表1で示すような52の項目がエレメントとされた。

その中で，システムの機能から，検索を迅速にする転置ファイル(Inverted File)を構成することによって利用者に迅速に情報が提供できる項目が指定された。(表中の I 及び T で示されているもの) このファイルは，各項目の値(文字列)がそのまま検索の対象となる I N D E X 属性(I)と，文章形式の項目の値から単語を抽出し，これら抽出された単語が対象となる T E X T 属性(T)の二種がある。後者は，単語と単語の位置関係(熟語，同一文中の単語であるかどうか)，及び，英小文字を考慮した検索が行えることが特徴である。

エレメントに指定された項目は，データ量によって時間がかかるが検索は可能である。転置ファイルに指定されたものは，現在の図書館界で手掛りとされている標目に対応するもので，迅速な提供が必要なものについてである。

なお，検索例は紙数の都合で省かせていただく。

2. 所在情報の形成

利用者の目録利用の最終目的は所在情報である。書誌情報データベースである L C M A R C の総合目録としての機能は，所在情報と結びついて初めて充全となる。この情報の入力・形成については，コマンドによる入力も可能であり，分担目録作業(Shared cataloguing)を有効にする方法，形式が探求されねばならない。これによってネットワーク参加館の必要とする書誌ツール，及び，業務上必要な書類を作成することが可能となる。

実験では，京大学内とし，部局コード，登録番号，受入年月日，請求記号で構成したものを使用した。

3. Local Input — 利用者の要求に即応できる書誌情報の入力 —

L C M A R C を閲覧用総合目録として機能させるために，目録すべき資料の書誌情報が格納されてない場合に各端末館での形成が必要となる。この入力形成が Local Input である。

既存の書誌データベースを継続的に購入し，up-to-date するとしても，受入れた資料に対応する書誌情報が常にあるとは限らない。この空白を埋める方法としてあるが，書誌情報のレベルが相互に変換可能な形で標準化されている必要がある。この点での検討の必要性はいうまでもない。

この実験では，入力方法について，① Line モード，② Screen モードで行うことが試みられた。情報の一覧性，入力にかかる時間等から②の方法が有効と思われる。

入力レベルについては，L C と同程度まで詳細な入力の方法も開発された。

入力データの点検・編集については，端末の段階での蓄積を経た方法が試みられた。

4. 出力形式

M A R C によると，一つの資料について利用者が手掛りとする書誌的項目のほとんどを盛り込むことができる。従って，検索も多様となり，出力形式も様々な形が可能となる。

現実の目録作業及び利用からすれば，カード形式の出力は不可欠だが，それを含めて，C O M (C-

カード形式出力例

Picture books : # papers presented at the course offered by the School of Librarianship through the Division of Postgraduate Extension Studies, U.N.S.W., 15th-18th May, 1973 / # edited by Margaret Trask. Ken sington, N.S.W.: # School of Librarianship, University of New South Wales, # 1974.
84p. ; # 27 cm.

PN1009.A1

78312095

Harrod, Leonard Montague, # 6905-

The librarians' glossary of terms used in n librarianship, documentation and the book crafts, and reference book / # Leonard Montague Harrod. London: # A. Deutsch, # 1977.

903p. ; # 23cm.

Z1006

78320722

従って、各参加館の必要とする出力の把握、調整、業務の流れの整備が望まれる。

Shared Cataloguing で基本的で不可欠のもの

A001	Authority record control number.
A008	Fixed length data elements.
A010	LC authority record control number.
A013	Link to bibliographic record.
A035	Local system number.
A040	Cataloguing sources.
A042	Authentication center.
A043	Geographic area code.
A045	Chronological coverage code.
A050	LC classification number (formatted).
A053	" (unformatted).
A100	Established heading - Personal name.
A110	" Corporate name.
A111	" Conference name.
A130	" Uniform title.
A150	" Topical subject.
A151	" Geographic name.
A260	See reference - General explanatory (subjects).
A360	See also reference - General explanatory (subjects).
A400	See from reference - Personal name.
A410	" Corporate name.
A411	" Conference name.
A430	" Uniform title.
A450	" Topical subject.
A451	" Geographic name.
A500	See also from reference - Personal name.
A510	" Corporate name.
A511	" Conference name.
A530	" Uniform title.
A550	" Topical subject.
A551	" Geographic name.
A664	Note - Cataloger generated (names).
A665	" Information or history (names).
A666	" General explanatory reference (names).
A667	" Usage or scope (names).
A668	" Characters in nonroman alphabets.
A670	" Source data found (names).
A675	" Source data not found (names).
A676	" Cataloguing rules (names).
A678	" Epitome or bibliographical summary (names).
A680	" Scope note (subjects).
A681	" Example under/note under (subjects).
A699	" Temporary scope note (subjects).
A880	Sorting field.

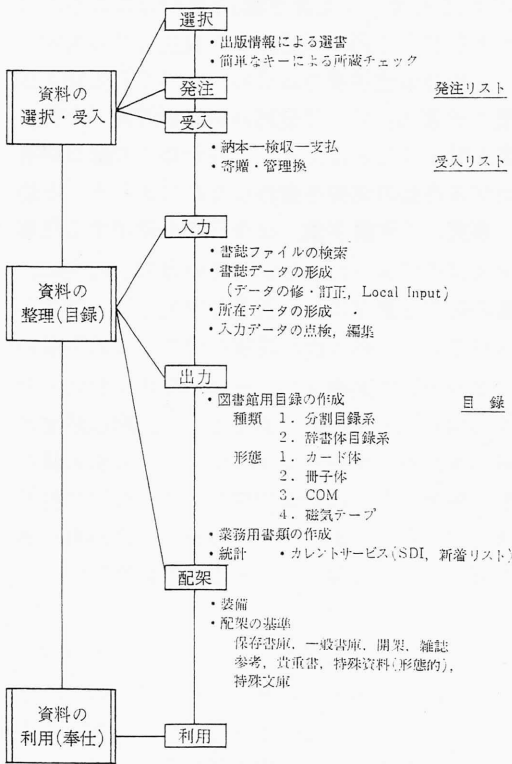
が典拠コントロールである。項目の内容は同一なのに異なった形式のものに分かれてしまうという混乱を防ぎ、正確で均整化された情報の形式に支えられた整備された目録とするために、これをどのような形で採り入れるかが検討される必要がある。これまでにシステム化されていない領域だと言え、表現形式の多様な固有名(著者、団体、会議、地名etc)、重層的構造をもつ件名に於ける典拠コントロールの有効な方法の開発が課題だ。F A I R Sで検索できる L C の Authority File は、L C で割によく使用されているものについてであり、全てをカバーしたものではない。以下に L C M A R C (Authority) のフォーマットと現在入っている形式を示しておく。(表 2. 3)

<u>Name Authority</u>	
# 1	
C001	n00770050480
A008	770727na a 004
A100	Mark, David M. n001770802aabann.....nnn... (10aw)
A400	Mark, D. M. n004770802aanann.....nnn... (10aw)
<u>Subject Authority</u>	
# 1	
C001	sh0780013990
A008	730719 b a 008
A150	Advertising Libraries n001730719aannnnnnnnnaa..... (Oaxw)

これまでに記してきたものを目録システムの概念図として整理することでまとめとしたい。

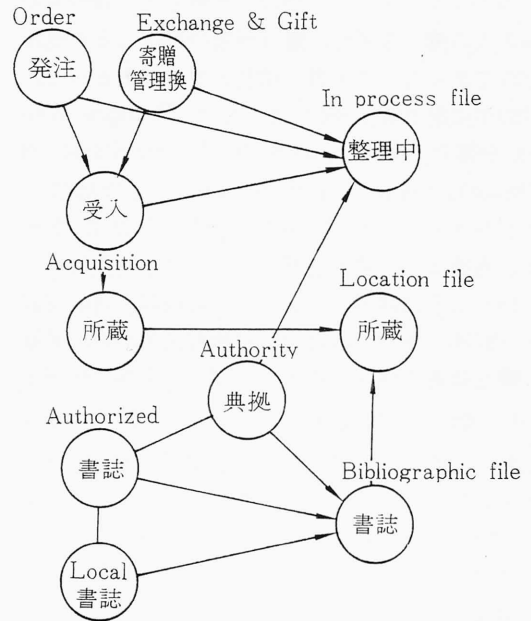
- 4 -

図書目録システム概念図



ことは、図書館（員）にとっても大きな意味があると言える。
(以上)

図書目録システムファイル構成



美本「和蘭字彙」について

附属図書館 廣庭基介

附属図書館の新営工事を間近に控え、書庫内蔵書の移動作業をすすめるなかで、明治36年に建てられた旧書庫の一隅において、桐箱入りの新品同様に美しい「和蘭字彙」（全17冊、ゾーフ原編、桂川甫周校訂、安政2年 江戸 山城屋佐兵衛刊）を見ることができた。これと同じものは本学には、この他に13冊本と9冊本が本館に、また別の13冊本が文学部言語学教室に架蔵されており、「国書総目録」（岩波刊）によれば、わが国全体では29部の存在が確認されているのであるが、ここに紹介しようとする17冊本ほど美しい状態のものは稀なのではないかと思われる。

この江戸末期に刊行された蘭日辞書は、徳川家

の奥医師であった桂川甫周が代表となって校訂板行されたもので、校訂される前のものは、「福翁自伝」において、緒方洪庵の適塾の書生たちが、諸大名からの注文を受けて書写に精をだしたと記されている、彼の有名な「ゾーフ・ハルマ」にはかならない。換言すれば、書写によって流布された「ゾーフ・ハルマ」を校訂して印刷・出版したものが「和蘭字彙」ということになる。

周知のように、ゾーフとは、寛政11（1799）年出島のオランダ商館の書記として来日し、享和3（1803）年、27才で商館長に就任、文化14（1817）年に離日するまでの約17年間を日本でくらし